

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム やがみ

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391400058		
法人名	社会福祉法人安代会		
事業所名	グループホーム やがみ		
所在地	〒028-7604 岩手県八幡平市丑山口28-1		
自己評価作成日	令和5年9月8日	評価結果市町村受理日	令和5年11月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1:職員各々の技術、経験をできるだけ発揮し、利用者皆様の一人ひとりが、その人らしく生活が送れる環境を整え、希望・意向をかなえられるよう、利用者様本位の支援を目指している(茶話会や日常の中で思い出を大切にし、楽しみある日々により添える支援) 2:家族様と電話や面会時で生活情報を共有し信頼関係を図るために細かいケース記録を心掛け、相談しやすい施設を目指している。(ここ最近は介護度が高く、健康面や医療面の情報共有がかかせない状況)

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年9月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、国道282号線から田山スキー場を背に、矢神川に面した場所に立地し、法人本部、特別養護老人ホーム、国保診療所が隣接し、診療、予防接種、介護への助言など、医療と介護の連携のもと、介護サービスを提供している。利用者の生活状況を「やがみ活動日記」として家族へお知らせして意見や要望を伺っている。利用者へのアンケートを通じて、外出や食事、買物などにも柔軟に対応し、利用者本意のサービスの提供を通じ、利用者の安心と家族の信頼を得ている。また、職員の提案を受け、業務の改善や設備の充実、資格の取得支援などにも努めている。コロナ禍にあって地域との交流が制限されるなか、地域防災組織の協力による周辺の草取りを続けているほか、地域の神楽やお祭り、相撲見学、軽トラ市等の見学など、入居者の思いに耳を傾けながら地域とのつながりの継続に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム やがみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の経営理念を中心に、各委員会活動を踏まえ、事業計画、生活支援体制を月に1度の『やがみ職員会議』等で協議、情報共有し実践につなげている。	法人経営理念を会議室や玄関に掲示し、いつでも目に入るようにしている。日頃から、利用者一人一人の意向や思いを傾聴したり、利用者アンケート、朝、夕の申し送り、職員会議などで挙げられた事項を毎年の事業計画の重点目標に盛り込んでいる。職員は、管理者との面談の上、個々に目標を設け、日々の入居者の支援に反映させている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	長期的なコロナ禍もあり施設内外においても地域の方々と交流する機会が減少しているが、R5年度は訪問理美容活用、むつみ会合同の園庭草取りも実施した。近隣の軽トラ市には住民として買い物ができる。地域交流スペースの開放、貸出しも可能だが、高齢者施設のため、コロナ禍だからこそ時間をかけて地域に認識していただけるようにしたい。	地域防災組織「むつみ会」による施設周辺の草取りのほか、農家からの野菜やブルーベリーの差し入れのほか、小学校からは児童発表会の案内があるなど、コロナ禍にあっても、地域との交流を大切にしている。	コロナ禍の状況をみながら、児童との触れ合いや地域ボランティア団体等の受け入れなど、地域との交流に向けた取り組みを検討されることを期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政、在宅支援センター主催の『認知症カフェ』への会場提供等、情報共有や情報の発信に継続して取り組んでいる。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業内容を詳細に報告し、意見を伺い透明性ある運営推進委員会を目指している。職員へは書面で内容、結果を共有しサービス向上に活かしている。運営推進会議開催前に次第内容をやがみ職員で回覧して意見を収集し、会議録も後日回覧している。	運営推進会議での協議や助言を受け、感染症対策や家族との面談方法のほか、利用者アンケートで出された食事、外出、用品確保、趣味の活動の希望を業務の運営や日々の介護サービスに活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員として地域包括支援センターとの協働等で助言をいただき、日々の業務や行事に反映させるように心がけている。「認知症カフェ」等での相談業務等への取り組みなど、情報を交換し共有・協力のうえ、信頼関係を築きながら取り組んでいる。	運営推進会議の委員として助言を得ているほか、生活保護の受給、要介護認定申請に際しての指導も受けている。各種行政情報は本部を通じて入手している。なお、市から認知症カフェの開催を受託し、認知症に関する普及啓発を行っている。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム やがみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束廃止検討委員会が法人全体で身体拘束しないケアに係わる取り組みを行い、隔月で委員会を開催している。管理者も構成員として参加している。物的拘束以外に精神的拘束等にも配慮し、職員間で情報共有しながら身体拘束のない環境を目指している。	2ヵ月に1回、法人による委員会を開催し、職員会議で報告しているほか、スマホを介して職員に情報を提供し、趣旨を徹底するとともに、日々の介護サービスに活かしている。特にスピーチロックの防止に配慮している。身体拘束の事例はない。防犯のため、夜間には玄関を施錠している。転倒予防のため、赤外線センサーを一部の居室で利用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人権擁護に関しては「中長期計画策定委員会」が中心となって法人全体で取り組んでおり、情報共有している。利用者様の観察を細目に行い、職員・利用者様同士の信頼関係を築いている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同上の内容ではあるが、人権擁護自己評価・他己評価に取り組み、言いやすい雰囲気、環境づくりに取り組み、情報提供・共有を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホームページ等を活用して分りやすく施設紹介し、併せて契約書に関しても傾聴しながら説明し、パンフレットを活用して、経済的な情報等を含めて透明性を念頭に不安の解消、理解の促進に取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様については年数回利用者懇談会（個人アンケート）で意見を傾聴し、職員会議で対策を検討のうえ具体化している。家族様についても運営推進会議への参加や面会時に、個別の記録の開示に併せて意向を伺い、またお便りに意見を寄せて頂いている。	定期的に聴き取りによる利用者アンケートを実施している。アンケートを受け、ラーメンを食べに出掛けたり、希望の調味料を配置した。また、2ヵ月に1回「やがみの活動日記」を家族に配布し、利用者の生活情報をお知らせしているほか、面会時や受診状況の報告時に、家族の意見や要望を聴き取り、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議・各種委員会活動、事業所の毎月の職員会議、日々の業務申し送り、人事考課の際の意見交換等その機会を多く持っており、職員全員が関わる体制づくりを行っている。	職員会議や申し送りに際し、職員の意見等を聴くほか、職員面談により、業務の運営、イベントの開催（ソバ手打ち、ミニドライブなど）、設備整備などの提案を受け、業務の改善、設備の充実に活かしている。職員個々の資格取得希望の確認を行い、助成金を支給して資格取得を促進している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やがみ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の人事考課実施要綱等の取り組みあり、事業所管理者が面接し、さらに施設長との面接がある。加えて法人の衛生委員会や各事業所において職場環境や勤務状況等が協議され、運営に反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修計画や要綱があり、研修体系を定め、研修経費の助成や職専免等の優遇措置がある。新人職員へは指導者がつくチューター制度があり、他にも希望したい研修や施設内研修等を用意し、取り組みを意図的に進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の研修会や県、地域ブロック研修会がコロナ禍のため、研修形態に変化があり、動画研修のネットワークを通じ今後も質向上につながる研修を計画していく。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設見学や本人様への面会、施設の様子をホームページ等で確認できる。入居後は毎日の新聞の読み聞かせ(茶話会)や隔月実施の利用者懇談会(アンケート)等の取り組みの中で本人様と向き合い、傾聴し安心して話せる環境作り、雰囲気作り、信頼関係作りを進め、寄り添う介護への支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申込みの際、家族様の要望や本人様の習慣を傾聴し、安心と安全な環境や施設の特徴を説明し、信頼関係の構築に努めている。面会時や受診後の報告時や年に数回「利用者便り(活動日記)」を発行して、家族様の意見も受け止める取り組みに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	開設時より取り組んでいる毎日の新聞読み聞かせや利用者懇談会(アンケート)で、本人様からの申し出や要望等を受け止めている。申し送りでその変化や経過を情報共有し家族様へも、同様に連絡を密にし安心して相談出来る環境作りに努めている。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム やがみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	上記の取り組みで傾聴と受け入れ姿勢を基本として「その人らしさ」や「その時」を大切に取り組んでいる。生活の中で「できること」や「やりたいこと」「集団の中の存在・協働」を継続して、日常生活の中で役割感を持って暮らしていただけるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様との絆を大切に、遠方在住家族様への配慮を含め利用者・地域・職員の三者で家族様を支援し、「利用者便り(活動日記)」で暮らしを網羅し情報提供を行い、施設を支援する地域と共に運営推進会議や交流事業を通して、その取り組みを実践し、家族様との絆や利用者様との支援を大切に取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者懇談会や毎日の読み聞かせでは行事や趣味活動の意見、要望等を確認し、外出行事等の参考にしている。今年度は地域の祭りや地域の行事等では家族・親戚・知人・友人との再会があり、馴染みの関係を意識した行事に継続して取り組んでいる。	地域のお祭り見学に出向いたり、年金を引き出す際に、昔からの馴染みの店に立ち寄り、食料品などを購入している。近所で開催される軽トラ市も馴染みのものとなって、個々に好みの飲食を楽しんでいる。2か月に一度近所の床屋さんが来訪し、全員が利用されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の読み聞かせ時間には皆様が顔を合わせ、思い出話や体験・経験談を笑いを含めて談話されている。利用者様同士の信頼関係が深まり、お互いに関わり、尊敬し、支え合い、見守っている支援の継続がなされており、できないことの支援もお互い理解しながら生活している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	昨年(R4)度は同法人へ移動となった方がいらした。移動の際は支援のあり方を情報提供・共有し、家族へのフォローも確認している。また、その後も面会や情報提供を行い、移り住むことへのダメージを最小限に食い止めることへの配慮を継続している。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム やがみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者懇談会(アンケート)での個別聞き取りは利用者様一人ひとりの希望、要望、意向等確認している。時には「不快だったことや職員への嫌なこと」なども確認し、利用者様個々を尊重し利用者様を中心に、職員からの一方的なものとならない寄り添う支援に取り組んでいる。	利用者アンケートを通して、個々の思いや意向に沿って、毎朝の新聞受け取り、みそ汁の盛付け、テレビでのスポーツ観戦、歌唱のほか、菜園の野菜類(トマト、ナスなど)収穫の手伝い等にも参加している。毎日行う茶話会で新聞や広報誌を読み、話題提供しながら意向確認の参考にしていく。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	同上に加え、利用者様個々の暮らし方は毎日の読み聞かせの時間がその取り組みの1つであり、利用者様からの発言(思い出の引き出し・その時)を大切に、その人らしさに寄り添う介護を目指している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを活用し生活援助計画実施状況の把握に努めている。また、申し送り時間、やがみ職員会議等で「できること、できないこと、支援して欲しいこと、危険なこと」等を確認し、希望時のバイタルチェックを行い食事摂取、排泄状況等も日々観察、記録して申し送りも行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	支援専門員を中心にカンファレンスを行い、日々の支援や介護計画等に取り組み、情報を共有し信頼関係を深め、利用者様・家族様の要望、変化を取り入れ対応している。6ヶ月毎に計画を見直し、家族様の意向、受診時の助言等も計画に取り入れている。	ケアマネジャーがモニタリングし、各担当者が確認の上でカンファレンスを行い、家族に提示し了解を得ている。医療面の情報や医師等からの指示、助言は、受診時に確認したことを計画に盛り込んでいる。計画期間は、6ヵ月を基本に見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は、ありのままの言動や行動を記録しその背景に何があるのか職員で共有できるようにこまめに記載している。家族様への報告の際も、確認資料としている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員会議や利用者懇談会、日常の利用者様の意見や家族様の要望等にも柔軟に対応できるよう、その人らしさやその背景を見つめることのできるよう支援している。屋内外行事や小さな小さな畑作り、手作りおやつ献立の希望等はその時々ニーズに対応しながら取り組んでいる。			

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム やがみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人のノウハウや豊富な情報に加え、運営推進会議構成員には地域包括支援センター職員や市老人クラブ会長、地区ボランティア代表等の地域資源に精通した方々も含まれており、地域に根差した法人・施設としてその取り組みを実践している。今年度から地域発行のチラシ、市広報も取り寄せ情報共有している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	R5年4・5月受診で22件、11診療科の受診通院。R5年6・7月受診で21件あり、R5年8月14件、全て職員が対応、主治医と面談。今年度も同数の状況。それぞれ家族様と連絡を取り、健康維持に努め施設として信頼関係を築きながら取り組んでいる。	利用者全員が入居前からのかかりつけ医に通院し、受診に際しては、家族の要請を受けて職員が同行し、受診結果は家族に報告している。精神科など、医師から家族同伴の指示があった場合は対応している。皮膚科、眼科も同様である。歯科は訪問診療により、入れ歯の矯正などを行っている。予防接種は、3名の方がかかりつけ医としている隣接の国保田山診療所をお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の付き添い、同行受診において必要時は法人看護職より指導・指示いただいている。代理受診も含め、継続して適切な医療が受けられるよう協力病院、かかりつけ病院とは連携し、観察・報告・相談等情報共有しながら取り組んでいる。(利用者様各々の受診病院の看護師に指導・指示を受けることが多い)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	隣接の診療所と市内外病院共に毎月各利用者様は定期受診している。入院等受入れ可能な市立病院は母体施設の主治医であり、法人の産業医、事業所の協力医療機関であり、常にその関係作りが行われている。医療相談室とも連携をとって情報共有させていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	R3年度は家族様の意向を受けて主治医と連携し終末直前まで施設で支援をさせていただき、労苦を共にフォローや相談、支援のありかたを確認できた。R5年度は入院からの終末期支援の方おられ、入院中で今後も見据え特養申請を一緒に考えた。家族様(本人様)、医療機関、施設の三者で情報を共有してチームで取り組んでいる。	重度化対応指針は整備していないが、家族には、その都度説明し、ADLの低下、医療依存が高くなった時点で医師の助言を仰ぎながら家族の同意を得て入院や次の施設に移行している。今後、事業所として、看取りや終末期ケアに対応する予定はないが、他施設での看取り経験者の知識や技術を活かすほか、隣接の特養に出向き、看護師の助言、指導を得ている。	

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム やがみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の事故発生防止対応指針がある。事業所においても利用者様それぞれにおいて、その急変時の対応を想定した緊急持ち出し用関係綴が準備されている。法人としての応急処置や緊急時対応マニュアル等もあり、必要において職員会議や日常業務で確認し合い取り組んでいる。R5年度は4月に救急搬送もあり、やがみ独自で8月『緊急時対応：動画研修』を実施した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人に防災対策委員会が設置され、地域消防協力隊(むつみ会)を組織し、災害時の訓練が行われている。事業所においても年2回訓練を実施し、運営推進会議でも報告している。7月末に職員、利用者参加でボイラー室火災と想定し避難訓練実施。職員は実際に使用し(消防署より訓練用借用)消火器の使用方法を再確認する。	年2回避難訓練を実施し、うち1回は夜間想定訓練としている。今回はコロナ禍により、消防署、地域防災組織の参加は無かった。田山コミュニティセンターが避難所となっているほか、隣接する法人の特養ホームが、福祉避難所に指定されている。ハザードマップには該当していないが、一級河川の矢神川に沿って事業所が立地している。食材は3日分を備蓄し、ガスコンロ、反射式ストーブも常備し、隣接の特養には非常用の発電機を備えている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月の職員会議や日々の申し送り時に気になる事はその都度支援方法を確認している。また、利用者懇談会(アンケート)で職員の言葉遣いや施設の日課・行事の良いところだけではなく不快なところやプライバシー配慮への確認を行なっている。R5年度は7月に認知症実践者研修開始に伴いやがみ独自で9月『言葉がけ：動画研修』を実施した。	個人情報、個別にファイルし、事務室で管理している。パソコン情報は、パスワードで管理している。排泄は、男女別のトイレを使用している。入浴、排泄の異性介助は特に問題は無いが、要望があれば対応している。「言葉がけ」に関する動画による研修も取入れ、自尊心を大切にする支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者懇談会(アンケート)をきっかけに利用者様全員の意見を抽出するなどの取り組みを行い、信頼関係作りに努めている。加えて茶話会、日常会話の中から本人様の希望に添った「物・時間・場所」を引き出せる会話に努め、その思いを自己決定で表現できる支援を行っている。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム やがみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「その日その時思い出」を大切に支援し、できるように毎日の新聞読み聞かせでコミュニケーションの時間を利用し、思い出やしたいこと、嫌なこと、機嫌等の精神・健康状態など、その時の行動を見つめ見守り、日々の暮らしを大事に取り組んでいる。個別の対応が職員間で統一出来る様に24Hシートを活用している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の衣類交換や通院、外出、面会時の際は衣類、身だしなみは本人様へ確認し準備している。要望があった時は家族様へ衣類入れ替えを行っていたき、おしゃれへの関心、興味等継続できるよう配慮し、外出時や季節行事の際は本人様の希望に沿った化粧や衣装の取り組み(希望確認)を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は三食、外部委託からの調理配膳で補っている。法人で食事サービス委員会を組織している。昼食の献立は利用者様の要望に配慮し、今昔・郷土・季節料理等、楽しみの一つとして支援し、準備、片付けを一緒に行える工夫をしている。今年度は小さな小さな畑での収穫を一緒にすることで 昼食時に彩を添える事を行っている。更に手作りおやつを利用者様と一緒に作ることで食事を楽しむ支援につなげている。	一日の食事は、特養から配膳されている。おやつは、利用者の要望を聴きながら、季節にあった、おはぎ、手打ちそば、たこ焼きなどを準備している。節句ごとに特徴ある食事(おせちなど)も提供している。敬老会、夏祭りでは、いなり寿司、焼き鳥、焼きそば、スイカ割り、ノンアルコールなどのほか、地域食のきりたんぽ、へっちょこダンゴ、ブルーベリーなども提供している。外食でラーメンを食べたこともある。家族や農家からの野菜や果物の差し入れも活用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	R5年5月～科学的情報システム(life)開始、量や栄養バランス等の助言を管理栄養士からいただいている。毎月の体重の増減管理、食事形態も相談し、利用者様の生活習慣、要望、しぐさを見守り支援している。1日の水分は個別に飲料量をシステム管理している(水分思考も確認している)。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行い口腔ケアを見守り支援している。口腔衛生管理加算に係わるサービス提供を行い、毎月歯科医師・衛生士の回診指導を受け、必要な治療は協力歯科医の『アオキ歯科』にて訪問歯科等受けている。食事前の口腔体操も兼ね歌を歌うなどで口腔ケアに配慮して取り組んでいる。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やがみ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや習慣、特異なしぐさを聞き取り個々の排泄状態に合わせた排泄用具提供(夜間ポータブルは4名)。布パンツ利用者様には 布製の安心パンツがあることを家族様にも情報周知していただく支援をしている。	排泄チェック表により、動向を把握している。利用者全員がそれぞれトイレを使用している。介助は見守り、確認程度である。布パンツ利用は4名で、他はリハビリパンツにパットを併用している。夜間のポータブルトイレ利用は4名である。失敗した場合は、トイレでのパンツ等の交換のほか、シャワーでの対応もある。トイレの場所に迷われる方もおり、見やすいように表示を工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防は主治医より指示を受け運動、水分、食事の調整や頓服での下剤使用助言を受け記録を確認し取り組んでいる。食事・水分等協議し、日々の活動やテレビ体操等取り入れ自然な形でできるように個別に対応した排泄支援に取り組んで自然な形で排便ができるよう個別に支援している(職員見守り陰部洗浄も兼ねシャワートイレの利用支援)。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週4回(月・木)(火・金)の入浴日を設定しており、ゆっくり入浴できるよう、浴槽の温度、入浴時間を個々に合わせている。シャワー浴や清拭を必要に応じ対応し支援している。また外出や個々の要望に応える形で翌日振り替え、追加入浴も実施している。病院からの指示での足浴の要望等に対応し、支援している(現在毎日足浴3名)。	原則週2回の入浴となっている。長湯、一番風呂などの希望には、時間帯をずらして臨機に対応している。職員とマンツーマンでの会話や歌を楽しんだり、夏場は窓を開放し、露天風呂の雰囲気を楽しんでいる。入浴時は職員と合唱している利用者もいる。水虫の方に足湯を提供し、快方につながっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活リズムや生活習慣を大切に支援している。抗精神薬はかかりつけ医と定期報告し服用していただき、就寝を強制せずテレビを見たい場合や夜間の一人歩き等個々の行動を尊重し、昼夜逆転しないよう納得出来るよう支援している。レム睡眠行動障害等含め利用者様それぞれ、その背景を配慮しながら安眠出来るよう支援している。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム やがみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後の服薬処方箋(紙面)は全員で回覧し、処方内容は確認している。変化があった際も、その副作用等を確認し、申し送り等で繰り返し情報共有を図っている。見守りや介助の必要な方、自己管理の方等それぞれの服薬スタイルに対応しながら支援している。薬管理職員も配置し残薬等の確認もできるよう誰もが確認できる表を活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者懇談会(アンケート)の要望等で、個々の役割りや楽しみを確認し、職員で情報共有して支援している。個々の役割りや楽しみを会話の中から聞き取り、職員で情報共有をして支援している。毎日の食事準備で盛り付けや洗濯たたみ、小さな小さい畑での野菜収穫やカーテン閉め、掃除等で日常の張り合いや役割感を感じとっていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人:2ヶ月に1回年金受け取りに郵便局に職員と出掛け近隣の、商店で買い物の支援を行っている。 個人:病院受診後時間を作り、行きたかった本屋に立ち寄りお買い物を実施。 利用者懇談会(アンケート)での聞き取りで個々の外出支援等に傾聴し、行事に取り組んでいる。日々の要望や、とっさなことでも応えることのできるよう配慮している。また、敷地内の小さな小さな畑や花壇への散策等の場合も付き添いまたは、見守りを行い利用者様の要望に応えられるよう支援している。	天気の良い日は施設周辺の散歩、テラスで日向ぼっこをし、病院通院後にはドライブを兼ねて自宅周辺や本屋に立ち寄られる方もいる。お花見、紅葉狩りや地元のお祭りのほか、相撲、神楽、花火の見学に出かけ、帰りにソフトクリームを食べたりしている。時期には、菜園の収穫も行なった。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大半の利用者様自身がお金を持ちたがらなかったが、中には郵便局の窓口の利用や小遣い程度を自己管理する方もいる。今後も買い物や外出支援、可能な利用者様の支援を家族様と連絡をとりながら、希望に合わせた取り組みを行っていききたい。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム やがみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している利用者様が2名。通販サイトの注文、家族様との会話など社会との繋がりが出来ている。家族様と話したい意向があれば、子機電話を使用し家族様との会話できる時間を設けている。手紙に代わる「やがみ活動日記」でコメントやメッセージを活用し聞き取り支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造施設で県産材を使用し、施設特有の施設臭、閉塞感がない。トイレも動線の4ヶ所にあり、各居室より使いやすい位置にある。談話室には6畳間がある空間となっている。全居室にエアコン完備し年間を通し温度管理ができる。浴室・脱衣場にもエアコン設置、温度管理を行い快適利用できるように取り組んでる。食事席においても個々の身体に合った椅子・テーブルを準備し、季節に合った装飾を工夫している。職員も床、手すり等朝晩水拭き等で掃除し、居心地よく過ごせる工夫をしている。	県産材を使用し天井が高く開放感がある。廊下やロビーは広く、室内は大型の引戸から光が入り明るい。壁には、利用者の作品や季節の飾りがあり、利用者は食事用テーブルやソファなどで寛いでいる。畳敷きの小上がりは、洗濯物置みやテレビ視聴の場としている。温度はパネルヒーターと床暖で、空調はエアコンや加湿器で管理されている。清潔感のある快適な居住空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話、交流等自宅の居間をイメージする食堂ホールの他に地域交流スペースがある。このスペースは地域住民へ貸出しできる空間であり、利用者様個々が屋外を眺め、一人静かに想いに更ける空間として利用されており、各々の居場所的空間となっている。 テレビ前のソファ席や玄関前の長椅子等は、気のあう同士が腰掛ける場面も多く見られ、居場所づくりの場と捉えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室においては壁掛けのコルクボードにはその人なりの居心地良さを演出出来るよう個人の写真や装飾品、利用者便り等の掲示板として使用できるよう工夫がなされ、個性的な居室作りに取り組んでいる居室においての所持品も人形や書庫やDVDオーディオ、テレビ、冷蔵庫等それぞれであり、個性的な居室作りに取り組んでいる。寝具交換時や家具移動時はベッド位置の確認もその都度している。	パネルヒーター、エアコンで温度管理され、洗面台、押入れのほか、テレビ端子、ナースコール、ベットが設置されている。窓は二重で、内側はアクリルの障子となっている。テレビ、ラジオ、衣装ケース、椅子、ラック、化粧品、家族写真などが持ち込まれ、利用者の意向に沿った居心地の良い居室となっている。	

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム やがみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様に合ったトイレの動線(4ヶ所のトイレ)、性別区分した居住ブロック、入浴の安全の為浴槽手すり設置、滑り止め洗身場所、往来自由な広めの廊下、自動ドアの人感センサー等があり、安全で安心できる施設作りを目指している。敷地内の小さな畑ではR5年度は初心者の野菜作りに取り組んでおり、一人ひとりができること、在宅生活の延長が楽しめることへの支援に取り組んでいる。自宅からの持ち込み絵本や、移動図書館から借りた絵本等を手軽に手に取れる本棚を設置。自ら手に取り自立した生活が送れる工夫をしている。		